

# 「山口県立大学の生涯学習・リカレント教育を中心とした 地域貢献活動の推進」

岡本早智子

附属地域共生センター 研究員

## 1. はじめに

筆者は平成15年4月、附属地域共生センターの前身地域共同研究センターに着任して以来、本学の地域貢献に関わる体制整備、事業推進に携わってきた。特に、「生涯学習推進の役割を果たす大学」「開かれた大学」としての本学の発展を支えるために、研究的・実践的に順次、推進体制を構築し、本学の教育機能の中に「生涯学習・リカレント教育を中心とした地域貢献活動の推進」を図ってきた。

その成果は、大学基準協会等の外部評価においても大きな評価を得、本学の大学としての特徴を描き出すと共に今後の大学の発展を示すものとなった、と評価されて、校園地域貢献賞の受賞となった。

## 2. 研究的・実践的取組みの経緯と内容

平成15年から順次推進してきた研究的・実践的取組みは次のとおりである。

### (1) 学内の現状と可能性の把握 (平成15年)

学内における聞き取り調査や関係会議をとおして、本学では今何をやっているか、これから何が出来るかを明らかにし、今後の取組みの基本的方向性を探った。

### (2) 地域 (県民) の期待・要望等の把握 (平成16年)

地域ニーズの具体をとりまとめるために、調査研究(対象: 県民、市町村生涯学習行政担当者、看護職者)を進め、ニーズの解析を行った。その結果、(1)の基本的方向性に肉付けする形で、本学にふさわしい大学開放システムを、「山口県立大学オープンカレッジ」として示すことが出来た。

### (3) 「山口県立大学オープンカレッジ」の事業化 (平成17年～) (図1参照)

「生涯学習基礎コース」「生涯学習発展コース」「キャリアアップコース」の3段階のコースをもつこのシステムの、下層の方から順次事業の具体化・実践化を図ってきた。

また、各コースの事業化に当たっては、次の各点を重視しながら進めた。

1) 出前型講座(「公開講座」「サテライトカレッジ」等)の開設に当たっては、共催先の関係市町・関係施設の担当者との協議に基づく合意形成を重視し、互いに満足できる講座を企画・実施する。

2) 「やまぐち桜の森カレッジ」の開設・実施においては、学内外から成る「実行委員会」を組織し、企画・運営に当たることにより、講座内容においても運営方法においても、県民の最新の課題とニーズを捉えることが出来、本学としても自信をもって提供出来る講座となる。

3) キャリアアップコースの事業化については、本学各学部等の所有する専門性を十分発揮して卒業生や県民の真に求めるキャリアアップが図れるように、「キャリアアップ研修の在り方に関する調査研究」を基礎にキャリアアップ講座の展開の可能性を探り、具体的なプログラムの開発・実施を図ってきた。(看護師、養護教諭、小・中・高教諭、栄養士等)

## 3. おわりに

以上はこの度の受賞に関わる業績の極く簡単なまとめで、意をつくせないが、論文として「地域と共に育つ山口県立大学の取組み～県民の生涯学習拠点としての大学づくり～」(岡本早智子、2008年度日本生涯教育学会論集p.243～p.252)を発表したので、参照いただきたい。

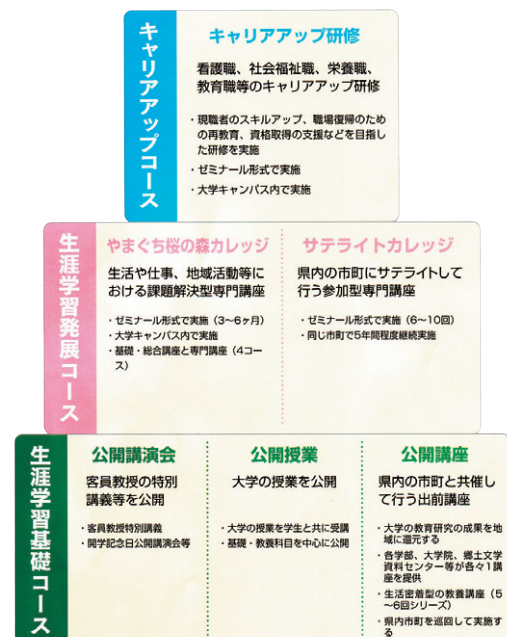


図1 「山口県立大学オープンカレッジ」